

第12回学習院大学ブランディング・シンポジウム
第32回生命科学シンポジウム

超高齢社会への新たなチャレンジ
—文理連携型〈生命社会学〉によるアプローチ—
学習院大学ブランディング・シンポジウム



ZOOM同時配信
ZOOMの申し込みが必要

公開講演

学習院大学 西5号館 201 教室

2023年6月17日(土) 聴講無料・来場者申込不要
13時30 - 16時30分 一般参加歓迎
(13時から受付開始)

『超高齢社会を考える VII』 少子化対策と生殖医療



「日本の少子化対策と生殖・周産期医療」

遠藤 久夫 教授
学習院大学経済学部



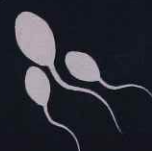
「晩婚化・晩産化の社会経済的背景」

梁 凌詩ナンシー 准教授
日本体育大学スポーツ文化学部
学習院大学生命分子科学研究所客員研究員



「妊娠、出産を安心してできる社会を 目指すには何が必要か？ —生殖医療から考える」

市川 智子 助教
日本医科大学付属病院女性診療科・産科



共催：学習院大学理学部・国際センター・桜友会寄付講座

後援：豊島区・学習院大学理学部同窓会

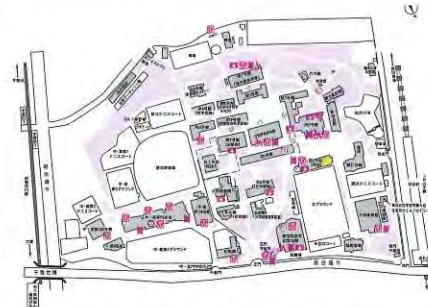
問い合わせ先：国際センター（担当：藤居）guic-off@gakushuin.ac.jp

公開講演・来場者申込不要・無料・一般参加歓迎

『超高齢社会を考える VII』 少子化対策と生殖医療

2023年6月17日(土) 西5号館201教室 JR目白駅から徒歩5分

13:30-16:30 (13時から受付)



超高齢社会を考える際、高齢化がもたらす社会・経済問題に注目することが多いですが、高齢化は長寿化と少子化が複合して生じているため、高齢化問題を緩和するためには、少子化対策が重要です。少子化とは、合計特殊出生率が人口置換水準を下回ること、日本は1975年より出生率が人口置換水準を下回っていますが、1989年の「1.57ショック」まではあまり注目されていませんでした。1990年から様々な少子化対策がとられるようになりましたが、2021年には出生率が1.4にまで低下し、対策の効果が十分にあるとは言えません。少子化の要因は結婚、出産、子育て、就学、働き方、所得、男女の役割、保育環境など多くの要素が複雑に絡み合っているため対策も多様です。2022年から生殖医療の保険適用が始まり、少子化対策としての生殖医療が注目されています。本シンポジウムは少子化対策と生殖医療をテーマに、はじめに政策論的な視点から少子化対策の全容とその中での生殖医療の位置づけを整理し、次に、生殖医療の需要が高まる晩婚化・晩産化の社会・経済的背景を紹介します。最後に、産科医である市川先生から臨床現場での問題点を提起していただき、日本が妊娠、出産を安心してできる社会を目指すには何か必要かについてお話しいただきます。少子化にまつわる研究の最前線となる本シンポジウムにぜひともご参加ください。

プログラム

- | | | |
|-------------|---|--|
| 13:30-13:35 | 開会挨拶 | 小島 和男 教授 (学習院大学文学部) |
| 13:35-14:15 | 「日本の少子化対策と生殖・周産期医療」 | 遠藤 久夫 教授 (学習院大学経済学部) |
| 14:15-14:55 | 「晩婚化・晩産化の社会経済的背景」 | 梁 凌詩ナンシー 准教授 (日本体育大学スポーツ文化学部
学習院大学生命分子科学研究所客員研究員) |
| 14:55-15:35 | 「妊娠、出産を安心してできる社会を目指すには何が必要か？
ー生殖医療から考える」 | 市川 智子 助教 (日本医科大学付属病院女性診療科・産科) |
| | 休憩 (15分) | |
| 15:50-16:20 | 総合討論 | |
| 16:20-16:30 | 閉会挨拶 | 柳 茂 教授 (学習院大学理学部) |

共催：学習院大学理学部・国際センター・桜友会寄付講座

後援：豊島区・学習院大学理学部同窓会

問い合わせ先：国際センター (担当：藤居) guic-off@gakushuin.ac.jp

ZOOM 同時配信
ZOOM 視聴：申込必要

